

# LETTER

GraSPP  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1 ページ GraSPP Alumni & Student Day 2018 開催報告
- 2 ページ INPEX 寄付講座 国際シンポジウム開催報告 / 三井不動産株式会社寄付講座 公開フォーラム開催報告
- 3 ページ 学生インタビュー (奈良ジゼールさん)
- 4 ページ APEC Voices of the Future 2018

## GraSPP Alumni & Student Day 2018 開催報告



り進められ、高原明生院長の挨拶によりスタートしました。

トークセッションでは、有馬純教授のモデレートにより「米中関係と北東アジア情勢の展望 - 貿易、朝鮮半島、一帯一路はどうか?」をテーマに、吉野直行氏 (アジア開発銀行研究所所長)、久保文明氏 (東京大学法学部教授)、高原明生院長によるパネルディスカッションが行われました。いずれも現在ホットなテーマであり、会場からも活発な質疑がありました。

続くアラムナイポータル説明会では、日野薫郎氏 (8期・経済政策コース・同窓会会長) とアーサー・エル・メディオニ氏 (12期・国際プログラムコース・同窓会副会長) が同窓生、在校生、教員が国境を越えて自由に交流できる場として昨年たちあげたアラムナイポータルの説明を行い、参加者に登録を呼びかけました。【GraSPP Alumni Association Portal】 <https://www.grasppalumni.com/> 最後の交流会には修了生、教員の他、森田朗先生 (初代院長)、伊藤隆敏先生 (4代目院長)、城山英明先生 (5代目院長) にもご参加いただき、大いに盛り上がり、全てのプログラムを終えました。

来年度の開催は2019年10月19日 (土) を予定しています。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

【東京大学公共政策大学院 Homecoming day】 <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/news/2018-10-21-17089/>

### Ronald Margallo (Class of 2013)

Alumni homecomings are normally just for a night but ours was made extra special by GraSPP through the generosity of Japan's Ministry of Foreign Affairs. Our homecoming was part of the ASEAN, Central and South Asia Youth Mission which ran for eight wonderful days. The whole experience was like reliving our student days in GraSPP – the lively policy discussions and alumni-related activities were balanced with experiential site visits to institutions known for environmental protection and technology.

The culmination of our activities was the alumni gathering held at the biggest hall in the new GraSPP building. I stood at the back of the room eagerly catching up with my batchmates whom I had not seen since we graduated in 2013, before my name was called to deliver a message. As I turned and faced the crowd from the front, I was captivated by what I saw. Looking at the faces of everyone – from the students to the alumni to the administrative staffs and to the professors – I was swept over by the feeling that GraSPP had gone a long way and the enthusiasm of the people that form GraSPP will continue the school's legacy as a change agent in the public policy sphere.

Our heartfelt gratitude goes to Dean Akio Takahara and others who made our homecoming possible. Cheers to a bright future ahead of GraSPP, our beloved alma mater, and its community!



## 国際シンポジウム「不確実性高まる国際エネルギー市場の将来シナリオ」

客員教授 小山 堅



2018年12月3日(月)、東京大学本郷キャンパス、福武ラーニングシアターにおいて、標記シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、2010年4月に始まった、国際石油開発帝石(株)の寄付講座「エネルギーセキュリティと環境」の活動の一環として実施されたものです。

「石油の世紀」であった20世紀から、21世紀に入り、世界は新たなエネルギー転換に直面しています。しかしその先行きには大きな不確実性があり、将来をどう見通していけば良いのか、不確実な将来にどう対応していけば良いのか、が世界のエネルギー関係者の重大な関心事項となっています。

その問題意識の下、本シンポジウムでは、BPのSenior AdvisorであるPaul Appleby氏と、米国ライス大学Baker Institute of Public PolicyのSenior DirectorであるKenneth Medlock氏のお二人から基調講演を頂きました。そこでは、世界のエネルギー市場の将来像について、様々なシナリオが提示され、我々が大きな変革の中にいることを明らかにして頂くと同時に、2040年頃までの先行きを見通すと、化石燃料、特に石油とガスがこれ

からも重要な役割を果たしていく可能性が高いこと、そのため必要とされる投資の確保や市場の安定が重要であることなどの指摘を頂きました。

基調講演に続く、日本のエネルギー政策関係者、エネルギー産業関係者、有識者等によるパネル討論では、それぞれの企業・産業・国として、不確実な国際エネルギー市場の将来にどう対応していこうとしているのか、等について活発な討論が行われました。国際エネルギー市場の安定と中東情勢、クリーンなエネルギーとしてのガス・LNGへの期待、成長するアジア市場への取組み強化、ロシアとのエネルギー協力等、多岐に亘る有意義な議論が展開されました。

こうした、内容ある意義深いシンポジウムに多数のご参加を頂き、成功裏にシンポジウムを開催できましたこと、本シンポジウムにご参加、ご後援頂きました皆様に、改めて心より御礼を申し上げます。

詳細は寄付講座「エネルギーセキュリティと環境」  
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/INPEX/event/2018-12-03/event.html>  
をご覧ください。



Mr. Paul Appleby



Dr. Ken Medlock

# 三井不動産株式会社寄付講座 開催報告

## 公開フォーラム「新しい公共空間管理のあり方 ～Park-PFIと日本版BID～」

特任教授 田中 健一

2018年11月27日(火)、福武ラーニングシアターにて標記フォーラムを開催しました。本フォーラムは寄付講座「都市地域政策と社会資本マネジメント(三井不動産)」の研究・交流活動の一環として実施したもので、行政(国・地方自治体)、建設、不動産、コンサルタント、金融、シンクタンク、大学など多方面から130余名の方々にご参集いただきました。

テーマの背景にあるのは今後の人口減少社会において都市や地域をいかに維持・改善していくかという大きな課題です。都市間競争、地域間競争のなかで、行政が主導する画一的なまちづくりにはどうしても限界があり、いわゆる公民連携を強化しながらエリア特性を生かして都市・地域を育てていくことが生き残りのポイントとなっています。

そうした中で特定のエリアを単位に、民間が主体となつてまちづくりや地域経営を積極的に行おうとする「エリアマネジメント」がますます脚光をあびつつあります。このフォーラムのテーマ「新しい公共空間管理のあり方」はこの「エリアマネジメント」を「空間」という新たな切り口から再構成し、今後の方向性を探ろうとする試みです。

行政から国土交通省大臣官房審議官(都市局)の清瀬和彦様、民間からは三井不動産株式会社商業施設本部アーバン事

業部長の齋藤裕様、そして学識から法政大学教授の保井美樹先生をそれぞれお招きし、公共政策大学院客員教授の中川雅之先生のコーディネートのもとそれぞれのお取り組みをご紹介いただきながら現下の課題の発見と解決手法を探るべく活発なディスカッションを展開しました。

当日の資料の一部や講演記録はウェブサイト<https://mfec.jp/>に順次公開してまいります。



# 学生インタビュー

第29回

## 奈良・ジゼールさん (MPP/IP1年)



高尾山にて。前列左から3番目がジゼールさん

### —GraSPPの生活は楽しい？

勿論！ GraSPPは自分の学びたいこと、好きな授業を取れるから面白いです！ あと、弁護士として働きながら大学で勉強しているクラスメイトなど、色々な経験をしている人が多いので友達から受ける刺激も大きいです。私は2019年2月から中国に留学します。昔から東アジアのことが勉強したかったので、キャンパスアジアは自分にぴったりでした。やりたいと思ったことができ、行きたかった所に行けるので、本当にラッキーで幸せです！

### —学生自治会長をやっていたとか

私は子供の頃、大統領になりたかったんです。それで、まずは手に届くところからと思って会長に立候補しました(笑)。立候補したことで知り合いが増えました。留学生と日本人をもっと交流させたいんですが、みんな忙しくて日程を組むのも難しく掲げた目標は大きいけど、実現するのは難しいと感じています。クイズNightというミニイベントや迎賓館見学ツアー、あとは高尾山に紅葉を見に行きました。

GraSPPは同級生が少ないので先輩後輩も含めて繋がりがずっと続くのが、良いところだと思います。あとはノリもいいから、「今から飲み行かない？」って楽に誘える友達がいるのも好きなところです。グループワークの授業が多いので授業以外でもミーティングもするから、「一体、今週はこの人と何回会うんだ？(笑)」っていうくらい友達と話す機会が多いですね。

### —将来の夢は？

領土問題に関心があるので、将来は国連でその分野に携わりたいです。高校生の時に朝鮮学校との交流会に参加したのをきっかけに興味を持ちました。子供の頃フィリピンに住んでいて中学2年で日本に来て、高校に進学しました。国際関係の授業の一環で近くの朝鮮学校と合同授業をしたり文化祭にも招待してもらったり、交流をしたんです。ある時、彼らと領土問題

について話し合ったんですが、そこでの互いの価値観や文化の違いに衝撃を受けました。こんなにも他人と自分は考え方が違うのかと驚いて、それから領土問題への興味が湧きました。大学3年生の時にはアメリカの大学に留学してアメリカから見た東アジアの現状を学んだんですけど、そこでも「東アジアの3国ってすごい似てるのに、なんでこんなに関係が悪いんだろう？」と考え、帰国後、東アジアのセキュリティ問題について学びたくてGraSPPに入学しました。

### —もうすぐ中国に留学ですね。

はい。友人たちと離れるのは少し寂しいですが、でも楽しみです。文化も風習も違う国に実際に住んで、様々な違いを体感してみたいです。領土問題は数多くの研究者が研究してもまだ解決してない難しい問題です。なので将来、私が領土問題にかかわれた時に何か少しでも貢献できるように、今は政治や経済など幅広く学んで、いろんな分野から領土問題を考えられるようになりたいです。やるならばトップに行きたいし、夢は大きいほうがいいので、目指すは国連の事務総長です！(笑)。

(インタビュー・文責 編集担当)



本郷キャンパスでクラスメイトと。左端がジゼールさん

# APEC Voices of the Future 2018

MPP/IP 2年 中原かゆき



左側が中原さん

2018年11月に私はパプアニューギニアで開かれたAPEC Voices of the Future(以下、VoF)に参加させていただきました。昨年の開催を知ってから1年間望んできたユース日本代表としての参加が幸運にも叶い、かけがえのない経験ができました。1週間のプログラムを終えた今、少しの達成感とそしてこれからの包摂的な社会をリードしていく一員としての責任感、エネルギーと希望に溢れています。

私は予てより国際関係や外交の根底を支える国家同士の信頼関係に関心がありました。そして今回VoFに参加するにあたり、世界のリーダー達がどのようにお互いに信頼関係を築いているかを学びたいと思いました。期間中、私はタイ代表の女子3人と一緒に部屋に滞在していました。最初は少し気まずかったのですが、部屋で自己紹介をし終えるなり、一人のタイ代表の方が部屋の中では英語だけ使おうと提案してくれました。あとから知ったのですが、その方は自身の留学中に言葉の違う国のルームメイトたちと生活した経験を思い出し、私のことを気遣ってくれたようでした。想像を膨らませ他者の立場を理解する努力をする姿勢が、個人レベルのコミュニケーションだけでなく社会問題を考えることにおいてもいかに大切かを改めて学びました。また、中国代表からも学んだことがありました。初日に私達は中国代表からディナーのお誘いを頂きました。ひとつのテーブルを囲い美味しい食べ物を一緒に食べる、というのは心を開いてお互いをよく知る絶好の機会でした。これはとても良いアイデアだと思った私達も、次の日から他の国の代表を積極的にお誘いしてディナーを楽しみました。

VoFを通して粘り強さと大胆さを持つ強さも学びました。CEOサミットでのあるスピーチで紹介された「上にいる者が自分にアプローチしてくることを期待してはいけない。若者から果敢に上に挑戦していくべきだ」というフレーズ通り、各国からの代表が貪欲にチャンスを掴みに行く様子、そして靱やかに困難に立ち向かう様子に感銘を受け、私もプログラム中からリスクを恐れずに小さな挑戦から始めていきました。中でも、安倍首相と昭恵夫人そしてABAC委員の方々に光栄にもお会いして、私達ユース日本代表のビジョンについて直接お話できたことが印象に残っています。世界のリーダー達がいかにか若者の力に期待しているかを実感し、これからの社会を支える一員として責任ある活動をしていきたいと思う機会となりました。特に私達を取り上げた日本の若者のメンタルヘルスの問題は、開催国パプアニューギニアを始め他国のユース代表からも世界共通の問題として共感ももらい、私はこの問題に真摯に取り組んでいこうと心に決めました。

最後になりますが、このプログラム参加を支えて下さった方々のおかげでパプアニューギニアで安全で実りの多い滞在になりました。急速な発展のさなかにある同国を訪れ、貧困、難民や先住民保護の問題に直に触れることができたのは大変意義のあることになり、ここで出会った地元の人達との交流のおかげでパプアニューギニアは私にとって特別な国になりました。私達ユース代表がVoFで築いた友情や知識をこれからもずっと活かし続けて、パプアニューギニアそして世界全体の平和な発展に貢献していくことを願いながら、今日も頑張っていきたいと思います。



## 編集後記

ニュースレター担当になってから、以前にも増してGraSPPで行われていること、学ぶ人、そして働く人への関心が高まったと感じます。賢くてエネルギッシュ、時に奇想天外な発想力と行動力で新しい世界を切り拓く、そんな面白い人たちがGraSPPには集まっています。2019年も多くの学びと気づき、希望と笑顔がこの場所から生まれていきますように！(編集担当)

vol. **53** NEWS LETTER

(編集・発行) 東京大学公共政策大学院 (発行日) 2019年2月5日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp  
http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/